

マダラの資源管理に関する基本的考え方

マダラの資源管理については、以下の基本的考え方を基に関係者の意見を十分に聞きながら検討を進める。

1. 資源管理の必要性

我が国においてマダラは、漁獲量が多く、広範に渡って多様な漁法が利用する重要資源の一つである。現在、資源は高い水準にあるものの、中期的には資源が大きく変動していることから、安定的な利用を図るため、資源管理の高度化を図っていく必要がある。

2. 資源管理の考え方

(1) 現在、マダラの資源管理については、主に地域（浜、都道府県等）や漁業種類ごとに公的に又は自主的にインプット・コントロールやテクニカル・コントロールが行われている。

(2) これらの管理措置は地域や漁業種類によって様々であることから、中長期的に資源の安定的利用を図っていくため、資源管理の高度化として、

①資源評価について、評価精度の向上や資源状況に対する関係者の理解醸成に向けた取組を進めるとともに、

②資源管理措置について、資源の状況並びに漁業及び資源管理の実態を踏まえ、親魚の安定確保やTAC管理の活用を含む統一的な措置の検討を進める。

マダラの漁業、資源状況等の概要

| 海域 | 漁業 | | 資源状況等(28年度資源評価結果) | | | 備考 |
|------------------------------|--------------------------------|----------------|-------------------|---|-------------|-----------------|
| | 主要漁業 | 漁獲量 (2015年) | 水準・動向 | ABC以外の管理方策の提言(概要) | 資源量推定 | |
| 北海道周辺 | | | 高位・横ばい | | | |
| うち日本海 | 沖合底びき網 刺し網 はえ縄 | 2,411t | (低位・減少) | 産卵親魚量を確保して資源回復を促すため、未成魚への漁獲圧を低く抑える。 | — | |
| うちオホーツク海 | 沖合底びき網 はえ縄 刺し網 | 1,672t | (中位・減少) | 未成魚を獲り残して再生産に向けることが持続的利用には重要であるため、未成魚に現状以上の漁獲圧がかかからないようにする。 | — | ロシア水域に隣接。 |
| うち太平洋(根室海峡) (その他・陸奥湾) | 沖合底びき網 はえ縄 刺し網 | 17,216t | (高位・増加) | 未成魚を獲り残して再生産に向けることが持続的利用には重要であるため、未成魚に現状以上の漁獲圧がかかからないようにする。 | — | |
| 本州太平洋 | 沖合底びき網 はえ縄 刺し網 小型底びき網 | 24,043t | 高位・増加 | マダラは非常に成長が早く、加入が多くない状況でも小型魚の漁獲規制によって資源量は増大する。 | 調査船による面積密度法 | |
| 本州日本海 うち青森～石川 | 小型底びき網 刺し網 はえ縄 沖合底びき網 | 3,312t | 高位・横ばい | 持続的利用のため、今後も若齢魚はこれまでと同様に混獲程度にとどめる。 | コホート解析 | |
| うち福井～島根 | 沖合底びき網 小型底びき網 | 1,287t | — | — | — | 韓国近海に産卵場を持つと推定。 |

※平成28年度の資源評価等から水産庁作成

※漁獲量(2015年)については暫定値。